

初診から 7 年後の経過報告

この 7 年で変化したこと。

「私のリウマチ体験」 有保ミチ子 69 歳

2015 年 12 月 7 日

私はリウマチを発症して 7 年になりますが、発症してすぐに松本医院をネットで見つけ、治療を始めました。以来、松本先生には、主人共々、大変お世話になっています。

なお、リウマチを発症してから、松本先生にお会いするまでの記録は、前回、[手記](#)として提出させて頂いておりますので、今回は、その後の経過について述べさせて頂きます。

松本医院で初めて診察を受けたのは 2008 年の 7 月でした。当時は、畑仕事やスイミング通いをしており、皆さんの手記と比較して、自分の症状がそれ程ひどくないので、「この調子なら早く治る」と楽観していました。

しかし、初診から 5 年が経過した 2013 年の 5 月から 8 月にかけて、両足の甲と左手首に特にひどいアトピーが現れました。幸い、身体の調子が良かったため、これからさらにクラススイッチが進む事を期待し、「これで長年のリウマチも収まるかな」などと思っていました。

私は、調子に乗ると無理をするタイプなのですが、この時期の私はまさにそうでした。2014 年 4 月から両足首に重りを付けて自転車に乗ったり、ウォーキングをしたりして体を鍛えようとしたのですが、逆に足首に負担をかけてしまいました。

2015 年 1 月、右足首が腫れ、歩行も困難になってきました。先生に電話で伺ったところ、「あなたは膠原病の体質だから、お灸の頻度を増やすように」とのアドバイスを頂きました。抗ヘルペス薬も症状に合わせ、量を変えて飲むようにしていました。今でも先生にお電話で抗ヘルペス薬の処方をお願いする度に、「この薬の保険が効いたら、どれ程、助かることか！」といつも思っています。

私は、以前からしばしば鼻の頭にニキビのような赤いブツブツができることがあり悩みの種になっていましたが、4 月末には鼻の頭だけでなく顔や首、デコルテが痒くなり、真っ赤になりました。顔が歪み、人相も完全に変わってしまいました。鏡を見たときは「これが本当に自分の顔？」と、大変ショックを

受けたほどです。しかし、「これでやっと自分にも人並みに大きなクラススイッチの症状が来たのだ」と、変に納得もしました。

外出もできず、ゴミ出し、買い物等を主人に任せるようになり、あらためて、「一人暮らしは、大変なことだな！」と感じました。

先生の論文や手記を読むこと、さらに自分の症状を詳細に観察して、論文や手記に書かれている症状と照らし合わせる事が、大きな日課となってきました。この頃は相当なストレスを受けていたためか、これまで気にならなかった白髪が急に増えてしまいました。まさに「あっという間の『浦島太郎』の出来事」でした。

8ヶ月経った現在、顔の輪郭はほぼ元に戻りましたが、首は気持ち悪い程に、シワシワです。でも、「いずれは強い肌生まれ変わるし、苦しんだ分、その時の喜びも大きいはず」と楽しみにしているところです。

右足首は未だ腫れていますが、幸いなことに毎日30分散歩出来る程度に良くなりました。今では主人と約30分のウォーキングを継続出来るようになったことも収穫でした。しかし、ウォーキングも、私の性格上、つい油断して、やり過ぎる傾向があるので気を付けなければと思っています。

なお、リウマチに罹る前は、しょっちゅう、鼻が詰まり、喉が痛くなる事が多く、そのために睡眠が十分ではなかったように思いますが、リウマチ発症以降いつの間にか、これらの症状から解放されていました。

思えば、リウマチになって以降の7年間は、色々なことを勉強しました。例えば、昔は虚弱体質だと勝手に思い込んでいましたが、これも自身の無知や不勉強からくる錯覚だったと分かりました。

松本医院にお世話になってから、歯科で歯石取りをして貰う以外、他の医者にかかることは殆ど無くなりました。今後も松本先生のご指導の下で、引き続き、お世話になりたいと思いますので、どうか先生ご自身もご自愛ください。未永く、私共患者の面倒を見て頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

私のリウマチ体験の中から、「自分が何故リウマチになったか？」について総括してみたいと思います。

リウマチになる前の私は、「今の医療は絶対的である」と信じて疑いませんでした。身体に何か異常があれば、医療機関に駆け込み、薬を貰っていたのです。その結果、私の身体には、ステロイドや免疫抑制剤、サプリメントなどの化学物質が、かなり入っていたのだと思い知らされました。

15年前、家のリフォームを機に顔にアトピーが出た際に、当時診察を受けた医師（その直後に急死）からステロイドの怖さを知らされ、脱ステをしたつもりでしたが、その時点では、不完全だったのでしょう。

その後も他の皮膚科で「ステロイドは嫌だ」と言っても「これは大丈夫だから」と言われ、無知な私は知らず知らずにステロイドを使用させられていました。

当時、エステの仕事を辞めて、パソコンのインストラクターの資格を取得して講師を務め、米国在住の息子たちの就職、結婚、父親の介護、相続、主人の入院等がありました。これらの後にリウマチの症状が現れてきたのでした。

その後の経過は、前回申し上げた通り、まさに松本理論で言われている通りの結果となりました。本来はアトピーが出るべきところ、ストレスの為に自らの副腎皮質ホルモンを出し続け、膠原病になってしまったのです。

しかしながら、リウマチに罹ったことでリウマチの怖さを知り、パソコンを勉強して、インターネットを知り、松本医院に辿り着き、夫婦共々、現在の健康を頂きました。世の中は誠に皮肉なものであります。

この7年間、先生の論文、患者さんの手記を通して世の中の仕組み、医学界や政治、経済等雑学まで幅広く、勉強させて頂きました。諺に言う「万事塞翁が馬」とはこのことか？と思う、今日この頃です。「人生、まさに、何が幸いするかわかりません！」そして、飽くなき、真実の医療を探求し続ける松本先生のお姿は、誠に眩しい限りです。そして、今までの自分を180度変えられたことに関しては、まさに、「リウマチに感謝」という気持ちです。

先生は、いつも「怖い病気など無い、『痛い』『痒い』の症状が出るのは、体内に入った化学物質を免疫が見つけて戦っている証拠だから、歓迎すべきである。」と言っておられます。「依って、自分の免疫を信じなさい」という先生のお言葉は、私には「物事は己で考え、己の意志で行動すべし。他力本願ではなく、自立すべし」と言うメッセージに聞こえてなりません。

松本医院のサイトに辿り着き、治療を受けることができた私達は幸運でした。しかし、治療を望んでも経済的に諦めざるを得ない多くの人々がいることも事実です。このことを考えると、気がふさいでしまいます。これ程、必要とされ、万能と思われる抗ヘルペス剤が、何故保険適用にならないのか？全く不可解な話です。この国は、相変らず強いモノ、権威あるモノに弱く、本当に孤独で弱い者、困っている者には、鼻も掛けない、そういう体質なののでしょうか？もし、そうであれば、私達も一層、自立に向けて「“免疫”という強い味方があるのだ」という意識をしっかりと持ち、「人を当てにせず、周囲を当てにせず、厚労省に頼らなくても良いような強い自分を作るべく努力すべきである」と、痛感してしまいます。

それでも、声を大にして、厚労省に訴えたい心境は変わりありません。何故なら、我々も高い、国民健康保険料を支払っているからです。そのためには、一日も早く、厚労省が保険薬として、抗ヘルペス剤を認め、私を含めて困っている人々が容易に入手できる日が来ることを一日千秋の想いで、祈っております。

真実の医療を探求している松本先生の姿勢には、「何事も諦めたら何も始まらない」という強い意志を感じます。そしてその強い意志が、小さなうねりを大きなうねりに変えるエネルギーになることを願って止みません。

最後になりましたが、リウマチやアトピーで苦しんでいる患者さんは私共の

他、関東地区にも沢山いらっしゃいます。この方々の為にも是非、東京進出をご検討頂きたく、よろしくお願い申し上げる次第でございます。

そして、松本医院の皆様のご健康、並びにご多幸、今後の更なるご発展を祈念申し上げます。それではこの辺で、ペンを置かせて貰います。